

2022年度事業報告

1. 公益目的事業

(1) 国際相互理解のための体験活動及び普及啓発事業

■国際理解講座 Global Understanding、沖縄フィールドワーク

2018年度以来、久しぶりの実施となった。沖縄戦の歴史と米軍基地問題について、各地を訪れて学ぶ体験型学習

期 間：5月2日～5日

参加者数：学生11名

■CENA (Civil Society Education Network in Asia) 夏期学校 Web スクール(共催)

CENA夏季学校はアジア9大学・団体に関わる学生が、アジア各国の歴史や情勢、社会問題を討議し、武力によらない平和構築に向けて学び合うプログラム。コロナ禍により7月～9月にかけて隔週日曜日夜、ウェブスクール計6回を開催。テーマは「ウクライナ戦争とポスト・コロナ時代」を掲げ、アジア各国の視点で情勢を分析した

期 間：7月～9月

参加団体：恵泉女学園大学、聖心女子大学、韓国・聖公会大学校、韓国・韓信大学校、台湾・世新大学、タイ・Asia Muslim Action Network、インドネシア・イスラーム大学、パキスタン・CWSA、早稲田奉仕園

■日中大学生による相互交流ワークショップ

グローバル社会において不可欠な「国際的な視野」を獲得することを目的に、参加者が互いに深く交流できる場として企画、オンラインで実施した

期 日：10月8日、15日、22日

参加者数：計25名(早稲田奉仕園8名、中国延辺大学6名、韓国ハンバツ大学11名)

日 程：

第1回 10/8	第2回 10/15	第3回 10/22
交流会 講演	相互交流ワークショップ： 「日本語学習アドバイジング-学習目標を実現させるために」	キャリア経験談： 留学生活&就活

■年中行事を楽しむ会 Feel Japan

留学生が日本の文化や風習を体験し、国際理解を促進するプログラム

七夕イベント：七夕を迎え、3号館1階ロビーに笹と短冊一式を用意した。留学生たちは、笹飾りをしたり、短冊に願い事を書いたりと積極的に参加してくれた。

歌舞伎鑑賞：ほとんどの参加者が歌舞伎鑑賞は初めてで興味津々だった。専門用語が多かったが、英語による解説付きだったので楽しく日本文化が楽しめた

期日：7月27日

参加者：計22名

ひな祭り：5号館ロビーにて雛人形の展示を行った

■長崎フィールドワーク

「3つのテーマでめぐる長崎～部落・移民難民・環境～」。

①被差別部落の歴史継承、②移民・難民の権利、③環境と公共事業の3つのテーマを通して、社会課題にクリスチャンはどう向き合ってきたか。それぞれの想いを持って活動する人々のお話を聞きながら、日本社会に共通する課題を考える趣旨で行った

期 間：2023年3月4日～6日

参加者：18名

日 程：

	0日目 [3/3](金)	1日目 [3/4](土)	2日目 [3/5](日)	3日目 [3/6](月)
午前		部落史 [前半]	大村市内	川棚町・ダム建設予定地見学 戦争遺構
午後		部落史 [後半] 平和公園周辺 岡まさはる資料館	旧長崎刑務所 長崎市内自由行動	長崎市内解散
夜	各自	参加者交流会 (自由参加)	各自	
宿泊	各自	リッチモンドホテル 長崎思案橋		

■企画展「祈りの人 渡辺禎雄型染版画展～齋藤治子コレクション～Vol. 4、5」

企画展「祈りの人 渡辺禎雄型染版画展～齋藤治子コレクション～Vol. 6 渡辺禎雄と動物たち」を開催

会 場：スコットホールギャラリー

期 間：10月27日～10月30日

来場者数：60名

(2) 国際相互理解を基調としたボランティア活動推進事業

■日本語ボランティアの会

新型コロナウイルスの影響で、2020年2月28日のクラスから会の活動を休止していた。学習者のニーズが多かったため、2022年6月10日(金曜日クラス)よりトライアルで対面クラスを再開した。そして、9月2日からは、水曜日と金曜日とも本格的に活動を始めた。ボランティアが熱心に学習者を教え、日本語を必要としている人たちの大切な居場所となった

活動期間：6月10日～2023年3月22日

活動日：水曜日1クラス、金曜日1クラス

活動方式：対面授業とオンライン授業を並行

参加者：合計57日(水曜日25日、金曜日32日)の授業日があった

のべ参加人数はボランティア360名、学習者441名

■野宿者支援給食活動(共催)

月2回の給食活動の食事準備、配食のボランティア活動を通して、貧困や生存権の問題を身近に感じた。友愛学舎や国際学舎の寮生のほか、早稲田教会や学生YMCAなどから学生、青年が参加した。準備に年間のべ343人、配食にのべ377人が参加し、ボランティア数は過去最多となった。お弁当は年間のべ3,397食を準備し、のべ2,265人の方に保存食などと一緒にお渡しした。保存食は学校の備蓄やNPO法人セカンドハーベスト・ジャパン、日本福音ルーテル帯広教会、そのほか個人からの寄付も多くあった。また、講演及び大学の授業の一環として学生を受け入れた。

(3) 国際相互理解のための語学講座及びその他講座事業

■多文化共生のためのボランティア講座—地域における日本語学習支援について学びましょう

多文化共生社会の創生に資するためにどのような支援ができるのか、地域日本語教室活動を例に模索した

期間：10月1日～12月10日全10回、対面3回、オンライン7回

受講者数：5名

講師：福村真紀子(茨城大学大学院助教、親子サークル「多文化ひろば あいあい」代表)

■Let's 朗読

朗読の基本や声の出し方などを学び、元気を養い、詩や物語の世界で感性を磨く。コロナの

状況を鑑み、全8回中対面クラスを3回にし、残りはオンラインクラスで実施した。

期 間：通年で前期・後期各8回開催

受講者数：前期8名、後期7名

講 師：飯島晶子(朗読家「VoiceK」主宰)

■パイプオルガン・アカデミー

通常の個人レッスンに加えて始めて発表会を開催、受講者が日頃の成果を披露
(レッスン)

期 間：通年で86レッスンを実施

受講者数：11名

講 師：水野均(桐朋学園大学講師、早稲田教会オルガニスト)

協 力：早稲田教会

(発表会)

期 日：2023年2月23日(木祝)

発表者数：7名

■STUDY HALL!

2022年度は1回のみで開催。Study Hall vol. 38「ミャンマーのいまを知る」写真展&トークライブ。2021年2月の軍事クーデター以降も続く混乱や報道されないミャンマー少数民族の話など、話題は多岐に渡った。

写 真 展：6月16日～22日、トークイベント：6月18日

講 師：亀山仁(写真家)、渡邊さゆり(日本バプテスト同盟牧師)

参加者数：24名(来場者13名、オンライン参加者11名)

■オンライン・聖書講座—新しい聖書の学び『マルコ福音書をジックリ読む(第5期)』(共催)

2018年度からの継続で「マルコ福音書」9章33節以下を丁寧に読み進めた。

期 間：通年毎月第2火曜日全10回

受講者数：68名

講 師：山口里子(聖書学者)

共 催：日本クリスチャンアカデミー関東活動センター

■オンライン・日本キリスト教史を読むⅡ大正編(共催)

第Ⅰ期明治編に続き、大正時代に日本のキリスト教をリードした人々、山室軍平、中田重治、高倉徳太郎、金井為一郎、賀川豊彦、植村環、矢内原忠雄の生涯とその信仰理解を考察した。

期 間：通年全7回

受講者数：60名

講 師：戒能信生(日本基督教団牧師、日本聖書神学校等講師)

共 催：日本クリスチャンアカデミー関東活動センター・関西セミナーハウス活動センター

■オンライン・「超入門！西洋美術史ーキリスト教美術を中心にー」（共催）

西洋美術作品におけるキリスト教表象の読み解き、作者の信仰、キリスト教思想等を学んだ

期 間：通年全7回

受講者数：24名

講 師：太田智子(山梨県立美術館学芸員)

共 催：日本クリスチャンアカデミー関東活動センター

■オンライン・「キリスト教文学に学ぶ」（共催）

キリスト教の影響を受けている明治期以降の日本文学、井上ひさし、遠藤周作、山本周五郎、芥川龍之介、大岡昇平、三浦綾子、北條民雄、柳田邦夫等の作品を読み解き、日本におけるキリスト教思想の受容を探った

期 間：通年全10回

受講者数：19名

講 師：柴崎聰(文芸評論家)

共 催：日本クリスチャンアカデミー関東活動センター

(4) 学寮運営事業（友愛学舎・ゲストハウス）

■友愛学舎

舎生数：4年生3名(男子2名、女子1名)、3年生2名(男子1名、女子1名)、2年生2名(女子2名)の在寮生に加え、新2年生1名、新1年生4名を迎えたが、5月に1年生1名、年度末に3年生2名が本人の希望により退舎した。

活動：朝の会 学期期間中の月曜日から金曜日の基本7時から7時30分まで。聖書研究・ヨハネによる福音書及び学生発表等も行った。毎月第1金曜日は信愛学舎と合同礼拝を行っている

舎生会 毎月1回開催、友愛活動・生活について話し合った

年間活動 4月の活動開始に向け、新入生を含めたオリエンテーションを3月22日から23日まで、箱根にて実施し、寮生活の意義や奉仕園や友愛学舎の歴史を学ぶ機会を持った

協力：古賀博牧師、中澤重光宣教師、李相勲牧師、長尾有起牧師に聖書研究のほか寮運営全般のアドバイザーとして奉仕いただいた

■キリスト教学生寮懇談会

都内及び近郊のキリスト教主義による超教派の学生寮のネットワーク。友愛学舎を含む10学寮（信愛学舎、山手学舎、山上学寮、東京ティラナスホール、登戸学寮、春風学寮、東大YMCA寮、一橋YMCA寮、同志会学生寮）の担当者による会合は開催できなかったが、見学や入寮希望の問い合わせ等で連携を取った

■ゲストハウス

1号館2階201～207号室の計7部屋を運営。のべ9名が在寮した。2022年度中に新たに3名が入寮し、5名が退寮した。

(5) 早稲田大学との協力による学寮運営事業（国際友愛学舎）

■国際学舎

早稲田大学の外国人留学生・研究員寮。レジデントアシスタント(RA)のRAコミュニティールーム滞在は日時を定めず事前告知制に変更のうえ再開された。コロナ禍の影響が尾を引いたため五月雨式な入寮に対応するなど、早大レジデンスセンターとの情報共有に努め柔軟な対応にあたった

2022年度国・地域別居住者数(合計283名、39の国と地域、RA含む)

アメリカ	62	イギリス	29	中国	23	ドイツ	22
日本	19	韓国	17	台湾	11	スウェーデン	9
イタリア	8	シンガポール	8	フランス	7	オランダ	7
香港	7	オーストラリア	6	アイルランド	4	カナダ	3
デンマーク	3	フィンランド	3	スペイン	3	ルーマニア	3
セルビア	2	オーストリア	2	チリ	2	トルコ	2
ロシア	2	ポーランド	2	タイ	2	インドネシア	2
スイス	2	ベルギー	2	コロンビア	1	ノルウェー	1
マカオ	1	ハンガリー	1	メキシコ	1	マレーシア	1
モロッコ	1	南アフリカ	1	チェコ	1		

■健康相談室の運営

寮生の希望者にオンラインで面談を実施し健康相談を行った

■ウェルカムパーティー

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。ウェルカムパーティーができなかったため、ささやかながら留学生一人ひとりに日本への留学の思い出としてプレゼントを用意した

■奉仕園クリスマス会

感染防止に留意しつつ、スコットホールでの「しずかなひととき」、留学生やRAによる素敵なアトラクション、友愛学舎生による劇の上演を行い、充実したプログラムとなった。

期 日：12月10日

参加者数：寮生を中心に50名ほど

■Cooking Exchange Program

留学生たちも簡単に作れる和食ということで、メニューは「卵焼き&巻き寿司」。日本の食文化や調理の仕方について学ぶ時間をもった。コロナ禍ということもあり、各自作った料理はお弁当にきれいに詰めて持ち帰ってもらった。母国に帰る前に楽しい思い出作りができて良かった

期 日：7月16日

参加者数：留学生4名

■留学生スキー研修@万座温泉

群馬県にある万座温泉を訪れ、スキー体験をした。初めてスキーに接する留学生が多く、挫折しかけたりもしたが、大きなゲレンデを満喫しつつ頑張った。スキーの後には何種類かの温泉を楽しんだり、参加者間で懇談する時間を持つことができ、よい交流の会となった

期 間：1月8日～9日、1泊2日

参加者数：学生13名、職員引率2名

■ホームビジット

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

■第3回留学生インスタ写真展

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

2. 収益事業

(1) 駐車場及び貸事務所等の賃貸並びに管理受託事業

■不動産賃貸事業

月極駐車場及び事務所の賃貸、宣教師館・牧師館、教会への施設貸出し。前年度より月極駐車場は8台分増設したが、通年満車の契約をいただいている

■早大染谷会館管理(収益事業1扱い：施設管理の受託)

早稲田大学染谷国際会館の施設管理及び入居者の各種対応を実施

(2) 会議施設及びホール施設の貸与事業

施設の貸与(会議室・ホール・ギャラリー)

- ・ お客様のご利用内容は、会議室・ホールは学習会、語学教室、音楽練習やコンサート、講演会など多岐に渡っている。早稲田大学サークルと外国語・朗読・文芸・詩作サークルの定期的な利用が顕著である
- ・ スチールは半数以上が婚礼前撮り業者となり、フォトウェディングの需要が顕著である。安定的にファッション雑誌・カタログ利用が多く、動画はドラマおよび再現VTRで、ミュージックビデオでも多くの利用があった

■施設・備品

スコットB1の改修工事を実施、100年前のレンガを初めて露出させ、ギャラリーの雰囲気と合わせた部屋に改修した



■早稲田スコットホールギャラリー

ギャラリーを利用した写真展・絵画展等の利用が増加した

■セミナープログラム(協賛を含む)の開催

- ・ 企画展「祈りの人 渡辺禎雄型染版画展～齋藤治子コレクション～Vol.6 渡辺禎雄と動物たち」を開催
- ・ チャリティ古本市
古本市 6月～8月上旬に実施。売り上げは次回の売上与併せて寄付する予定
- ・ フリースクールから見るウクライナの戦争
2月24日 雫穿大学・東京DEW共催イベント
- ・ スコットホール公開日
10月27日 事前予約制(9組・10名様ずつ)満席

3. 公益目的事業・収益事業共通業務

■業務管理システム等の整備

昨年度に引き続き、各部署の事務作業のAT化、デジタル化を進めてきた。現在、学寮での寮費収納のキャッシュレス方式導入について検討している。

4. 記念事業

2019年度から2022年度までを期間として企画した「ベニンホフ記念館(5号館)竣工・セミナーハウス開設50周年及びスコットホール献堂100周年記念事業・募金」の実施状況は下記の通り

企画事業・募金	実施状況
スコットホール パイプオルガン設置	早稲田教会との協同事業として、スイス製パイプオルガンを設置(2019年2月)
スコットホール ステージ床張替、木部補修等	スコットホール地下B1室改修、1階事務所部分床補強工事として実施(2022年5月)
ベニンホフ記念館(5号館)学生寮設備更新、1階通用口の改良工事	学生寮設備更新工事を実施(2021年8月)、通用口改良工事は見送り
スコットホール パイプオルガン演奏会	早稲田教会と協同でパイプオルガンのお披露目を兼ねた演奏会を実施(2019年5月及び11月)
被爆ピアノコンサート～未来への伝言 2019	協賛事業としてスコットホール講堂を会場に実施(2019年8月)
杉原千畝と奉仕園～1920年前後の青年たち(仮題)	「若き日の出会い 杉原千畝と早稲田奉仕園～創設者ベニンホフ宣教師と1920年前後の青年たち～」と題して、シンポジウムを実施(2020年10月)
平和を築くために～未来への提言	国内外の青年が集う平和構築を考えるイベントを予定したが中止

早稲田奉仕園のルーツを訪ねる旅	アメリカのベニンホフ、スコット夫妻ゆかりの地を訪ねる旅行イベントを予定したが中止
スコットホールの歴史編纂	『100 Years of SCOTT HALL WASEDA HOSHIEN GRAPHIC / HISTORY』の2冊を発行(2022年1月)
記念募金 目標額 500万円	188名の個人及び12の団体・事業所より、9,187,500円の寄付をいただいた(2019年8月～2022年10月)

5. 法人総務

■財団会議

①理事会

- 第1回定時理事会(6月10日)
- 第2回定時理事会(2023年3月9日)
- 臨時理事会(11月16日)

②評議員会

- 定時評議員会(6月27日)
- 臨時評議員(11月30日)
- 評議員みなし決議(12月15日)

③常任理事会

- 第1回常任理事会(5月25日)
- 第2回常任理事会(7月27日)
- 第3回常任理事会(10月25日)
- 第4回常任理事会(2023年2月22日)

⑤職員会

原則毎月第1及び第3火曜日に開催

⑥マネージャー会議

原則毎月第2週を除く毎週に開催

■監査

監事監査 5月19日(決算)、1月27日(期中)

外部監査 4月1日(実査)、5月18日～19日(決算)、3月22日(期中)

■月次会計報告

石橋税務会計事務所と毎月1回会計、会計・財務の打ち合わせを行う

■役員等人事

【理事】 退任：弦間正彦(11月30日付)

新任：麻生享志(11月30日付)

【評議員】 退任：高木範夫(6月27日付)、藤井公博(12月15日付)

新任：尾内一美(6月27日付)、友金孝夫(12月15日付)

■登記

高木範夫評議員退任及び尾内一美評議員登記(7月20日)

弦間正彦理事、藤井公博評議員退任及び麻生享志理事、友金孝夫評議員登記(12月27日)

■行政庁(内閣府)諸届

2021年度事業報告等の提出(6月28日)

評議員変更の届出(8月2日)

税額控除に係る証明申請(8月5日)

理事及び評議員変更の届出(2023年1月16日)

2023年度事業計画書等の提出(2023年4月3日)

■早稲田奉仕園賛助会員

54名に加入いただいた

■広報

奉仕園通信は83号(8月25日)、84号(2月28日)を発行、ホームページの更新及び「奉仕園スタッフのブログ」の掲載を随時おこなった

■キリスト教施設長会議

新型コロナウイルス感染拡大のため中止した

6. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う措置

■感染陽性者発生の場合

寮生及び職員に若干名の陽性者があったが、感染拡大には至らなかった

■事業への影響

事業部報告に記載

■職員勤務体制

通年で通常勤務体制に復帰した

2022 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成していない。